**Amami night-sky pufferfish / *Torquigener albomaculosus* / Amami hoshizora fugu / アマミホシゾラフグ**
長年奄美大島の南部の端から少し離れた海を探索するダイバーは、海底に不思議な3つの円を目撃していた。2011年、水中カメラマンがユニークな海洋生物による魅力的な動きを目撃し、謎とされていた円形の模様が明らかになった。それはアマミホシゾラフグの産卵巣であり、この場所でしか記録されたことのない独特な求愛行動の様子であった。オスは体長12cmほどで小さく、ヒレを使い、直径2mにもなる細かい円形の模様を水深10〜20mほどの場所で作っている。様々な貝やサンゴを集め、使いやすいサイズに砕き、巣を飾り付ける。

小さな魚の大きな仕事
巣作りの作業は1週間以上かかることもあり、メスが巣の見た目に惹かれた場合、交尾をし、円の中心で産卵が行われる。産卵後、メスは巣を離れ、オスが卵の世話をする。数日後、孵化すると、オスは新たなデザインの巣作りを始める。同じ巣を再び使うことはない。2014年にこの不思議で働き者の魚は新種として登録された。名前は背中にある多くの銀色帯びた白い斑点からきている。